

数値解析法 第3回

九州工業大学 機械知能工学科 機械知能コース 3年 坂本 悠作
学籍番号 13104069 提出日 2015 年 4 月 28 日

3 固有値問題

3.0.1 正方行列とは

正方行列には、次のような性質がある

- 行の数と列の数が等しい行列
- 逆行列を定義できる
- 行列式 (スカラー) を定義できる

A : n 次正方行列

$$Ax = \lambda x \quad (1)$$

1. n 個の固有値
2. A が実対象行列のとき、次の性質がある
 - 固有値は全て実数となる
 - 異なる固有値に属する固有ベクトルは直交する
3. A が対角行列 \rightarrow 対角成分が固有値
4. M が正則 $\rightarrow M^{-1}AM$ は、 A と同じ固有値
5. $M^{-1}AM \Rightarrow D$ (対角行列) $\rightarrow D$ の対角成分が固有値
 M の各列が固有ベクトル

3.1 べき乗法

絶対値が最大の固有値・固有ベクトルを求める方法

3.1.1 考え方

$$A \text{ の固有値 } \|\lambda_1\| \geq \|\lambda_2\| \geq \cdots \geq \|\lambda_N\|$$

$$\text{固有ベクトル } u_1, u_2, u_3, \cdots$$

u は互いに 1 次独立なので、初期ベクトル $x^{(0)}$ はこれらの 1 次結合により、次のようになる。() 内の数字は A を何度かけたものかを表している。

$$\text{任意のベクトル } x^{(0)} = c_1 u_1 + c_2 u_2 + c_3 u_3 + \cdots$$

よって、

$$\begin{aligned} Ax^{(0)} &= c_1 Au_1 + c_2 Au_2 \cdots c_N Au_N \\ &= c_1 \lambda_1 u_1 + c_2 \lambda_2 u_2 \cdots c_N \lambda_N u_N \end{aligned}$$

この計算の () の値を大きくしていくと、

$$\begin{aligned}
 \mathbf{x}^{(k)} &= \mathbf{A}^k \mathbf{x}^{(0)} = c_1 \mathbf{A}^k \mathbf{u}_1 + c_2 \mathbf{A}^k \mathbf{u}_2 \cdots c_N \mathbf{A}^k \mathbf{u}_N \\
 &= c_1 \lambda_1^k \mathbf{u}_1 + c_2 \lambda_2^k \mathbf{u}_2 \cdots c_N \lambda_N^k \mathbf{u}_N \\
 &= c_1 \lambda_1^k \left\{ u_1 + \frac{c_2}{c_1} \left(\frac{\lambda_2}{\lambda_1} \right)^k u_2 + \cdots + \frac{c_N}{c_1} \left(\frac{\lambda_N}{\lambda_1} \right)^k u_N \right\}
 \end{aligned} \tag{2}$$

仮定より、 λ_1 が最も大きい値であるので、 $\left(\frac{\lambda_N}{\lambda_1} \right)^k$ の値は、 k が大きいと 0 に収束する。よって、第一項目以降を 0 と考えると、 $c_1 \lambda_1 \mathbf{u}_1$ となる。以上の議論により、

$$\lim_{k \rightarrow \infty} \frac{\mathbf{x}^{(k)T} \mathbf{x}^{(k)}}{\mathbf{x}^{(k)T} \mathbf{x}^{(k-1)}} = \lambda_1$$

これにより、 λ_1 が求められる。

3.1.2 例題

$$\mathbf{A} = \begin{pmatrix} 2 & 2 & -1 \\ 0 & -1 & 0 \\ 0 & -5 & 3 \end{pmatrix}, \mathbf{x}^{(0)} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} \tag{3}$$

このときの固有値・固有ベクトルを求めよ

3.1.3 解答

このときの最大固有値は 2.9992 である。

3.2 Jacobi 法

3.2.1 考え方

\mathbf{A} : n 次正方行列

n 個の固有値・固有ベクトルを同時に求める

$$\mathbf{A} = \begin{bmatrix} a & b \\ b & d \end{bmatrix} \tag{4}$$

$$\mathbf{P} = \begin{bmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix} \tag{5}$$

$$\mathbf{P}^{-1} = \begin{bmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix} \tag{6}$$

1. \mathbf{P} が正則 $\rightarrow \mathbf{P}^{-1} \mathbf{A} \mathbf{P}$ は、 \mathbf{A} と同じ固有値
2. $\mathbf{P}^{-1} \mathbf{A} \mathbf{P} \rightarrow \mathbf{D}$ (対角行列) $\rightarrow \mathbf{D}$ の対角成分が固有値
 \mathbf{P} の各列が固有ベクトル

$$\mathbf{P}^{-1} \mathbf{A} \mathbf{P} = \begin{bmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a & b \\ b & d \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \lambda_1 & 0 \\ 0 & \lambda_2 \end{bmatrix} \tag{7}$$

$$a = d \Rightarrow \theta = \frac{\pi}{4} \quad (8)$$

$$a \neq d \Rightarrow \tan 2\theta = \frac{2b}{a-d} \quad (9)$$

3.2.2 例題

$$\mathbf{A} = \begin{bmatrix} 1 & -2 & -2 \\ -2 & 2 & 0 \\ -2 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

対称行列であるので、Jacobi 法が使える。非対角成分の絶対値最大のものを正とする。

3.2.3 解答

1. 絶対値最大のものを見つける
2. その要素が 0 になるように回転行列 P1 を転地行列にして左からかける
3. 右から P1 をかける
4. 計算して出てきたものを $A^{(1)}$ とする
5. 新たに行列 P2 を作る
6. 繰り返し

非対角行列の値が小さくなれば答えとする。

固有値 4,-2,1

固有ベクトル $v_1 = (-2, 2, 1), v_2 = (2, 1, 2), v_3 = (-2, -2, 2)$

問題

$$\mathbf{A} = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \\ 1 & 2 & 1 \end{bmatrix}$$

上の行列の固有値、固有ベクトルを求めよ

- ベキ乗法
- Jacobi 法
- 厳密解を求めて評価すると加算